



市と教育委員会などは、「ライフサイエンスセミナー」を夙川公民館で開催します。基調テーマは「食べ物の文化と科学」。申込は9月19日までに総合教育センター(0798・67・6855)へ。

【日程・内容】8回シリーズ。いずれも午後6時から。10月3日:世界を変えた植物。10月10日:チヨコレート物語。ロマンと科学の三千年。10月17日:野菜と健康。野菜を摂って毎日元気!。10月24日:ゴマのきた道。10月31日:香辛料の民族学。ハブと多数の場合抽選)。

電話番号で市外局番のないものは「0798」です。費用の表記がない催しなどは無料。詳しくは問合せを

平成16年度前期分
市立ギャラリー
使用申込受付

西宮市文化振興財団は、9月2日に、市民ギャラリーと北口ギャラリーの平成16年度前期(16年4月6日~10月3日)使用申込を受け付けます。 筆記具持参

スポーツ

●全日本フットサル選手権・西宮予選 9月15日午後10時から塩瀬体育館で。チームと個人の登録が必要。要参加費。申込は9月5日まで。申込方法など問合せは西宮サッカー協会フットサル委員会(0797・84・8216:中上方)へ

●秋学期リーグ戦卓球大会 9月28日午前9時から中央体育館で男女別団体戦3人1組。要参加費。申込は9月13日まで。問合せは西宮市卓球協会(66・0861:植田方)へ

●市民公開講座「葉と健康フェア」 10月4日午後2時からフレンドホールで。講演、落語家・桂小米朝さんのトークなど。定員280人。申込は八ガキに住所、氏名、年齢、電話番号を書き、9月13日(消印有効)までに西宮市薬剤師会(〒662・0911池田町13-2)へ。多数の場合抽選

●講演会「阪神タイガースの経済学」 8月30日午後1時半から高木公民館で。定員100人。当日先着順。問合せは同館(65・1569)へ

●たそがれコンサート 8月30日午後4時から大社小学校で。吹奏楽、合唱など。問合せは大社地区青少年愛護協議会(72・4836:長谷部方)へ

●六甲山を美しくする会「グリーンハイキング」 9月7日。ゴールは芦屋市奥池。雨天中止。問合せは産業振興課(35・3321)へ

●A:午前8時半に阪急苦楽園口駅東側夙川公園に集合。約8時。B:午前9時に阪急芦屋川駅北側旧山手幼稚園前に集合。約5時。

●グリーンプラザ(リゾ鳴尾浜内) 9月の催し 水曜休み。問合せは鳴尾浜臨海公園(48・9386)へ

●花と緑の教室 12日:種まきの楽しみ。種まき後、比較的是やく収穫できるミニ野菜、19日:秋の寄せ植え。いずれも午後1時半から。要教材費。定員各40人。秋色ガーデニングのススメ展:9月12日、10月2日

●子育て総合センターの催し 問合せは同センター(39・1521)へ

●子育て総合センターの催し 問合せは同センター(39・1521)へ

●若竹生活文化会館の講座 申込は各受付日以降に同館(67・7171)へ

●カライコイデインター 3級講座:9月17日~11月26日の水曜(10回)午後7時から。在勤・在学者可。教材費5600円。定員25人。申込は9月1日から。住まいの花づくり:多数の場合抽選。紙すき教室:9月14日午前10時から

●市民ギャラリー 午前10時に2階集会所で受付(10時半から抽選)。問合せは同財団(0798・333111)へ

●北口ギャラリー 問合せは同財団(0798・699・3160)へ

●男女共同参画センターウエーブの「働く女性のための講座」 申込は8月29日から同センター(64・9495)へ

●保育あり(2歳)就学前定員あり。要申込。コミユニケーション講座:9月27日午後1時から。在勤・在学者可。定員30人。語り合いグループ:10月18日、12月6日の土曜(5回)午後10時から。定員10人

●教育会館のパソコン初最少開催人数5人

●多数の場合抽選

●講演会「阪神タイガースの経済学」 8月30日午後1時半から高木公民館で。定員100人。当日先着順。問合せは同館(65・1569)へ

●六甲山を美しくする会「グリーンハイキング」 9月7日。ゴールは芦屋市奥池。雨天中止。問合せは産業振興課(35・3321)へ

●グリーンプラザ(リゾ鳴尾浜内) 9月の催し 水曜休み。問合せは鳴尾浜臨海公園(48・9386)へ

●子育て総合センターの催し 問合せは同センター(39・1521)へ

●若竹生活文化会館の講座 申込は各受付日以降に同館(67・7171)へ

●市民ギャラリー 午前10時に2階集会所で受付(10時半から抽選)。問合せは同財団(0798・333111)へ

●男女共同参画センターウエーブの「働く女性のための講座」 申込は8月29日から同センター(64・9495)へ

●教育会館のパソコン初最少開催人数5人

阪神米穀のお米

べっさん

■本社 TEL.0798(26)0221(代表)

お米とお祭り

日本各地での夏祭りや秋祭りは、米の豊作を田の神に祈ったり、感謝することに由来しているといわれています。日本人は昔から田を耕し、稲を育ててきました。農耕技術の発達や人の努力にもまして、人間の力の及ばない大自然の力に左右される稲作。昔の人々が、天を仰ぎみて豊作を祈り、やがて祖先の霊を田の神として信仰するようになったのは、ごく自然のことだったでしょう。田楽などの芸能も田植えの時のお囃子や歌が始まりだといわれています。

阪神米穀は「おいしいごはんを食べよう県民・国民運動」を応援しています。